



略歴

昭和45年3月に駒澤大学経済学部を卒業。平成元年9月30日から5年6カ月にわたって西根町議会議員を、平成7年4月30日から10年4カ月にわたって県議会議員を務める。平成17年10月2日からは初代八幡平市長として、市の発展に尽力。4期16年を勤め上げる。

この度、令和3年10月1日をもって八幡平市長を退任いたしました。16年前市民の皆さまのご理解とご支援をいただき初代八幡平市長に就任以来、あつという間の16年でした。就任して間もなくのリーマンショックによる地域経済の疲弊、そして想像したこともなかった政権交代による混乱、10年を経た今日でも深い爪痕を残している東日本大震災、それに伴い遠く離れた我が市にまで影響を与えた原発事故、今正に国民全てが憂いそして収束に向け立ち向かっている新型コロナウイルス感染症、めまぐるしくそして急激に変化する市を取り巻く環境、そういった中であつても市長に課せられているのは、いかなる変化があつたとしても市民の暮らしの維持向上、社会的弱者への支援、市の将来を担う子どもたちの学び、活動するための環境

整備などを念頭に、信念を持って今日まで頑張れたと思っております。それもこれも市民の皆さまそして議会の皆さまのご理解とご支援があつたればこそ改めて御礼申し上げます。今から60数年前の昭和の大合併、西根・安代では経験した方はおられませんが、ほとんどの市民の方、そして自治体職員にとつては初めての経験、試練だった訳ですが、それを乗り越え新生八幡平市が平成17年9月1日に「農と輝の大地」をテーマに誕生しました。合併に関わつた全ての皆さまにはその決断に、改めて心から敬意を表するものです。合併の根拠になつたものは、主にそれぞれの旧自治体における財政状況の悪化にあつたものと思つており、市長就任以来、市民生活の向上、地域の活性化のためには、まづもつて合併時360億にも上る借金

の圧縮、いわゆる財政の健全化と同時に、合併によって過疎化が進む市にあつて、より過疎化が進む地域に住む市民の皆さまの合併によって地域が取り残されるのではという不安、この解消を図ることを最重点に取り組んでまいりました。その結果として庁舎建設、市立病院の移転新築、松川地熱発電所からの引湯管の更新、キャトルセンターの建設、田山スキー場の市有化、大更駅周辺整備、子育て支援、コミュニティバスの運行などさまざまな事業展開をしながらも、大幅に借金を減らし財政の健全化が図られました。地域のことは地域でという観点から市内12カ所に地域振興協議会、協議会の考えを執行するためのコミュニティセンターを設置するとともに、合併前旧自治体を取り組んできた産業振興策をより充実させることで、合併に伴う地域の不安を少しでも解消できたのかなと思っております。退任に当たつて残念に思っていることは一つだけ、私は県議会議員当時から今日までとにかく多くの人と会つて

市民の皆さまの思いを行政に反映させていくをモットーに、土日昼夜を分かたず市民の皆様と触れ合つて来ました。しかし任期最後の1年半は、新型コロナウイルス感染症の発生でそれができなくなりました。16年間の御礼と市のこれからについて大いに語り合いたかつたのですが、それがかなわず忸怩たる思いです。八幡平市は第一次産業、観光、商業バランスの取れたすばらしい市です。そして気候にも恵まれ国立公園を抱え、自然豊かで地熱という自然エネルギーの市でもあります。こういう環境を生かし益々発展できる可能性を持っています。私はここに生まれ育つたことに誇りを持つてこれからも生きていきたいと思っております。この市を引き継ぐ新たな市長も誕生しました。市民の皆さま、議会、行政が連携しスクラムを組んでさらに発展して行くことを大いに期待して退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

帰農します

何かの折にはお招き下さい

前八幡平市長 田村正彦

退任のごあいさつ